

# 令和2年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会

## <次 第>

日 時 令和3年2月16日（火）午前10時  
会 場 萌え木ホール

1 開 会

2 議 題

(1) リーフレット（案）について

3 閉 会

### 配布物

（事前送付）

資料13 リーフレット（案）

参考 ・事前照会結果

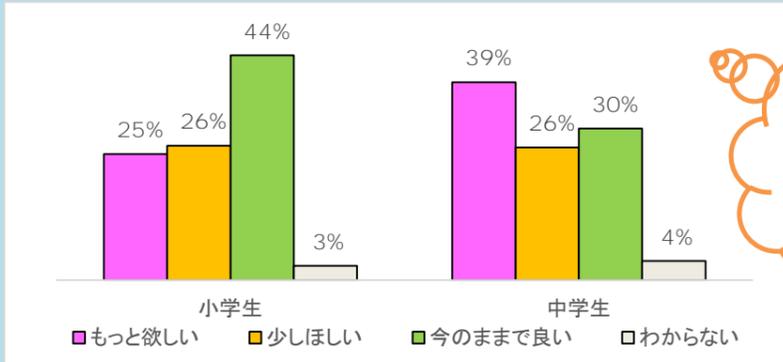
・子どもアンケート分析結果（未完）

（当日配布）

・次第

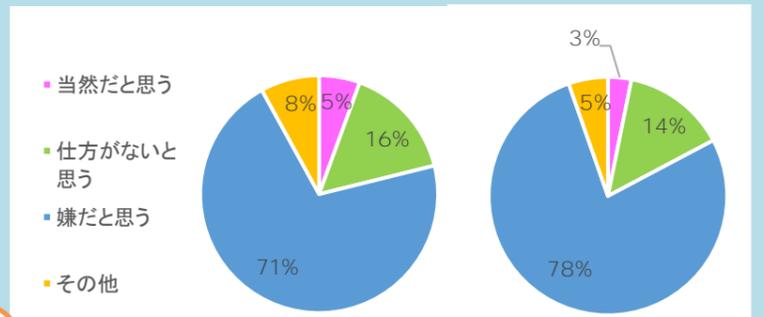
・青少年問題協議会専門委員会 委員名簿（改選分）

## ○ のんびりする時間が欲しいですか？

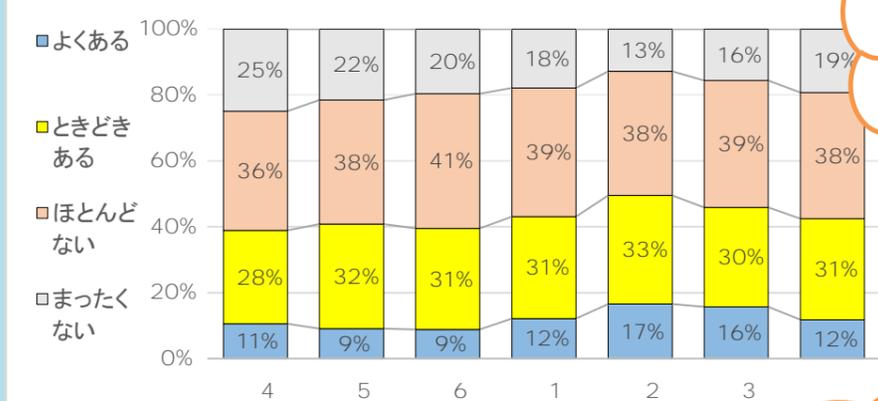


小学生の4人に1人、中学生になると3人に1人が自由な時間が全然足りないと感じています

## ○ 自分のやることや将来を親に決められることをどう思いますか？

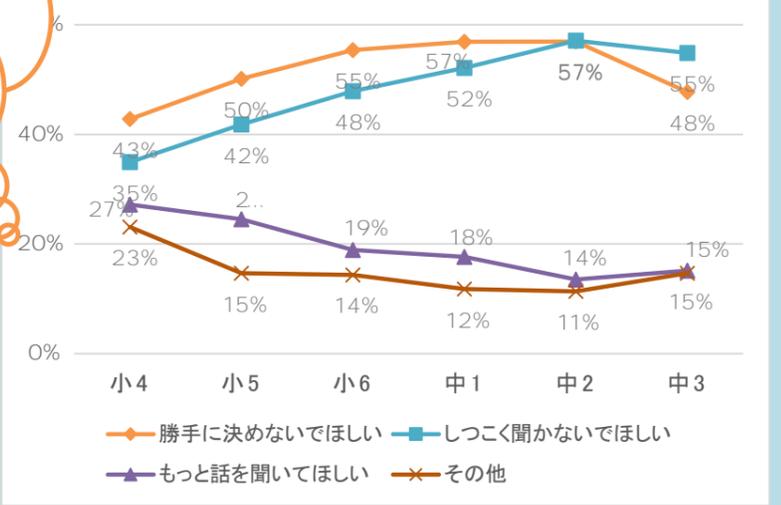


## ○ 学校に行きたくないと考えたことはありますか？

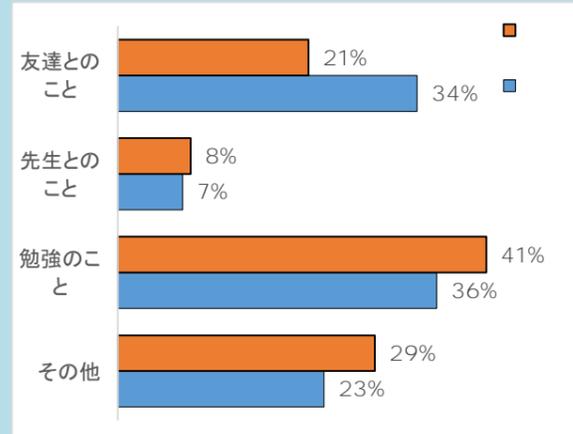


2人に1人は、勝手に決められることを嫌だと思っています。また、年齢が上がるにつれて、しつこく聞かないでほしいと思っているようです

## ○ 大人に心掛けてほしいことは何ですか？ (複数回答)



## ○ 行きたくない理由はなんですか？



### ○ その他の理由 (上位3位)

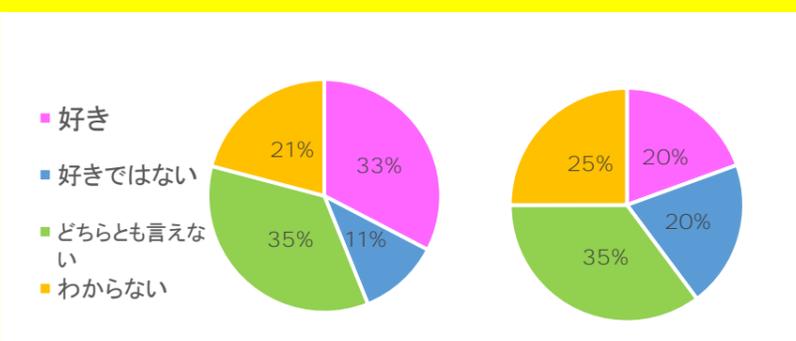
- 小学生**
- ・ 疲れている、だるい
  - ・ 面倒くさい
  - ・ 嫌なこと・行事がある
- 中学生**
- ・ 面倒くさい
  - ・ 寝不足
  - ・ 部活のこと

4割の子供が、学校に行きたくないと考えたことがあるようです

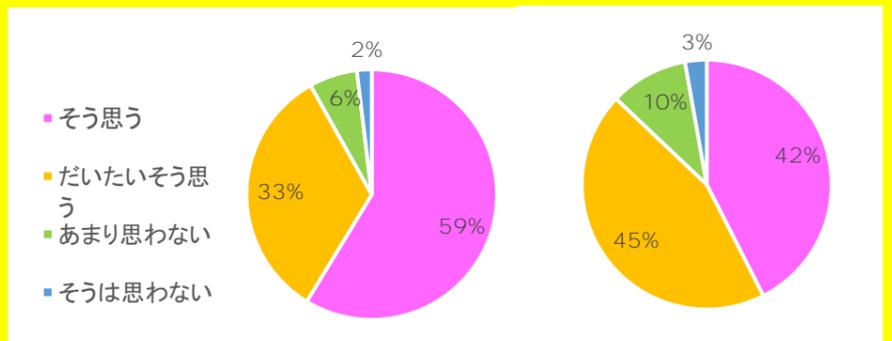
### ○ 「子どもが思っていること」について、調べたものです。

小学生は現状に満足している子どもの割合が大きく、中学生になると忙しいと感じているようです。また、学校での生活ではなく、「疲れる」「だるい」「面倒くさい」など、心が元気でない理由で学校に行きたくないと考えている子どももいました。また、自分のやる事や将来のことを親に勝手に決められるのは嫌だと感じている子どもは7割以上に上っています。ついつい口を出してしまったり、決めつけたりしていませんか？子どもも自分で色々考えています。

## ○ 自分のことが好きですか？



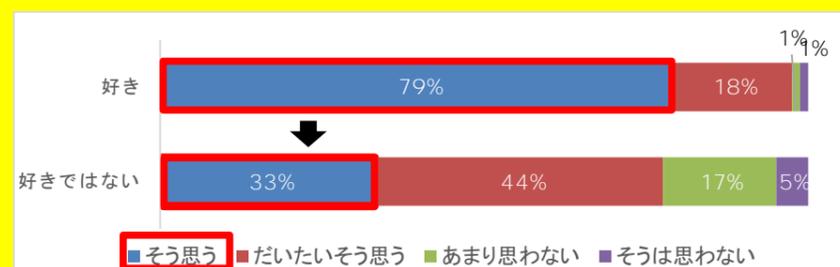
## ○ 自分は周りの大人から大切にされていると感じますか？



小学生の3人に1人、中学生の5人に1人は自分を好きだと思っていますが、小学生の10人に1人、中学生の5人に1人が自分のことが好きではないと思っています。平成30年度の若者の国際比較調査では、日本の若者は、他国と比べて「自分が他者の役に立っているか(自己有用感)」が自己肯定感との相関が強いことが指摘されています。

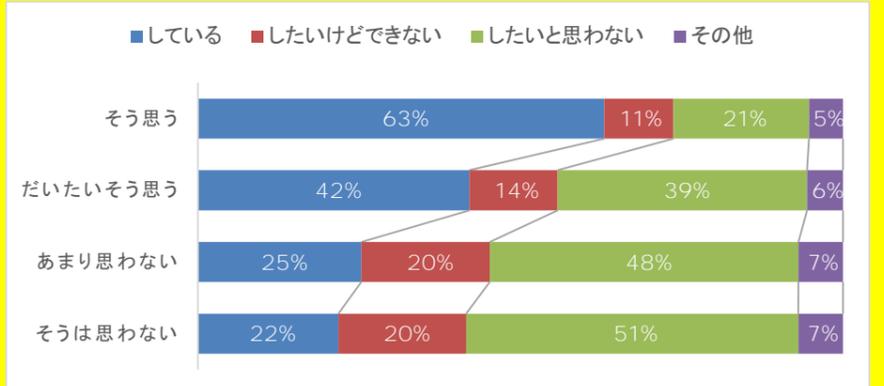
9割前後の子ども達が肯定的ですが、学年が上がるにつれ実感が減るようです。大切に思っていることを、言葉で伝えていきますか？

### ○ 「自分のことが好き」と「大切にされていると思う」の相関関係



周りから大切にされていると実感できる子どもは、自分を肯定的に捉えることができている子が多いようです。また、悩みができた時に相談するかも、大切にされていると感じているかどうかと相関関係がありました。

### ○ 「大切にされていると思う」と「悩みを相談できている」の相関関係



## ○ お子さんと「会話」していますか？

子どもの権利に関する条例が制定される前に調査した15年前と比較すると、自分が好きだと答えた子どもは小学生で3ポイント上昇しているのに対し、中学生はほとんど差がありませんでした。

のんびりする時間が欲しいかという質問では、中学生はあまり差がなかったものの、小学生では今のままでいいと答えた子どもが8ポイント減り、代わりに今より自由時間を希望する子どもが8ポイント増えています。このことから、小学生は10年前に比べ、忙しいと感じているようです。

2020年はコロナにより、学校や塾、習い事もいかず、家族で過ごす時間が増えた家庭もあったと思います。自宅でのんびりしながら、会話のキャッチボールを楽しみましょう。



2022年、世界は新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ、私たちは誰も体験したことのない1年を過ごすことになりました。

緊急事態宣言における外出自粛や一斉休校による生活の変化、マスクや手洗い、ソーシャルディスタンスを意識する行動の変化、テレワークなど勤務が変化した家庭もあり、今までとは違う生活サイクルに戸惑った方も多かったのではないのでしょうか？

外出先で人目が気になったり、生活スタイルが変化したことで自宅も落ち着かなく感じたり、毎年行っていた旅行に行けなかったり、先行きの見えない不安や気疲れ、ストレスを、大人の私たちも少なからず感じています。

では、子ども達は不安やストレスを感じたりしていないのでしょうか？

たしかに、子どもは適応する力があります。

(学校の様子など挿入)

大人は買い物や通勤を禁止される訳ではありません。子どもは

<http://www.city.koganei.lg.jp/>



小金井市  
子どもの権利  
に関する条例



相談窓口

子どもの権利  
に関する相談  
リンク集



○ 相談窓口 (子どもの権利に関する相談リンク集)

子どもに関して、いろいろな悩みを相談できる各種窓口があります

「市ホームページ→子育て・教育→子どもの権利」から検索!

○ 困ったり、つらい時、誰に相談しますか? (複数回答)

	小学生	中学生
1位	家族 (71%)	友達 (63%)
2位	友達 (46%)	家族 (50%)
3位	先生・SC (15%)	その他 (14%)
4位	その他 (9%)	先生・SC

※ 小金井市の小・中学校の児童・生徒へのアンケートから

子どもの権利で大事なことは、「子どもの声を聴く」ことです。「子どもの声」と聞いて何を連想しますか？

「お菓子が食べたい」「ゲームがしたい」「おもちゃが欲しい」もちろん、そういう「今」への要求もありますが、大人と同じように子どもでも、日々たくさんのことを考えています。

小金井市では、子どもの権利に関する条例を制定してから10年が経過しました。小金井市の子どもたちは今何を考え、どう感じているのか。子どもの権利の視点からその実態を探るべく、その実態を探るべく、アンケート調査を実施しました。

<アンケート調査方法>

- 実施時期=令和元年10月
- 対象=全市立小学校(小4~小6)2,738人、全市立中学校(中1~中3)2,031人
- 回答数=小学校(児童2,588人)、中学校(生徒1,902人)
- 回答率=児童:94.5%、生徒:93.6%

※ 裏面に「子どもが思っていること/自己肯定感」があります

悩みに対する子どもの意識

○ 悩みがあるとき、相談できていますか？



「悩みがあるとき、誰かに相談していますか?」における「その他」回答者の自由記載内容

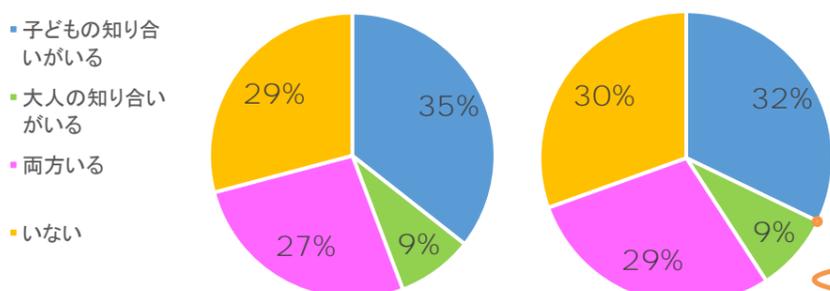
小学生

- ・言いたいけど言えない
- ・相談内容による
- ・(相談)したい時にできない
- ・(相談)しても無駄
- ・(悩みなどが)ひどい時は相談する。

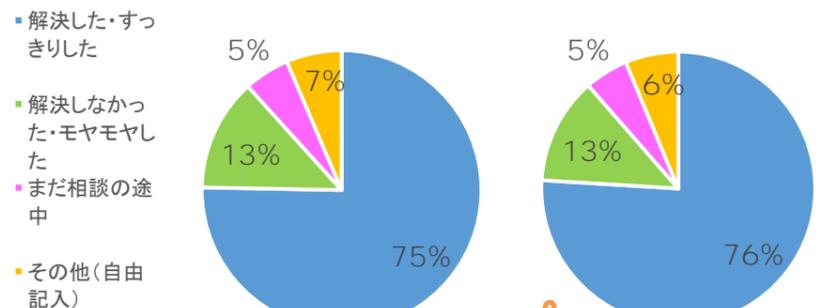
中学生

- ・誰にも言わない、誰にも相談しない
- ・自分(自己解決)
- ・あまり誰にも相談しない

○ 学校や家族以外の友達や、相談できる知り合いがいますか？



○ 相談した結果、どうなりました (相談したことがある人のうち未回答を除く)



相談した結果については、年齢差はないようです

コロナ前に子どもの悩みに関する実態について調査しました。

どの学年でも2人に1の子は悩みを相談していますが、6人に1人は「したいけどできない」と感じているようです。また、中学生になると「したいと思わない」子どもが増えるようです。

相談先では、年齢が上がるにつれ友達を選ぶ子どもが増えますが、中学生くらいまでの子どもにとって、行動範囲は広くなく、家庭と学校以外の人との関係性にも年齢差はありませんでした。子どもにとってやはり「家族」は大切な相談相手になっているようです。

「したいと思わない」と感じている子どもは全体で3人に1人いました。

お家のお子さんも、もしかしたらそう感じているかもしれません。大切なことを伝えるのも大事ですが、朝食や夕食など日常の中で、意識してお子さんの悩みに気がつく機会を増やしませんか？

3割の子どもは、家族や学校以外に相談できる知り合いがいないようです